

『道具』

私たち人類は、道具を発明し、それを使うことで大きな進化を遂げ、文明を築いてきました。現代に生きる私たちは、多くの道具の力を借りて生活しています。

この「道具」という言葉は、もともと仏教から来ています。

「道具」は、僧侶の持ち物のことをいいました。「仏の道つまり仏道修行のための用具」の、仏道の「道」と、用具の「具」が結びついてできた言葉のようです。道具は僧侶の持ち物の中でも、とくに修行に使う持ち物をいいます。

2500年程前のインドの仏教教団では、道具として「三衣一鉢」がありました。「三衣一鉢」とは、日常生活用・屋内用・托鉢用の三種類のお袈裟と、一つの托鉢の時に用いる器のことです。これが修行僧の持つ基本的な道具でした。

現在でもお袈裟と、「応量器」という器を大切に使っています。

このような、修行のための用具を、すべて「道具」というのです。

やがて、僧侶以外の人々が使う用具も、「道具」と呼ばれるようになりました。

『世間』

「渡る世間に鬼はなし」ということわざがあります。「私たちが生きている社会には、悪い人ばかりではなく、良い人もたくさんいるのだよ」という意味になるでしょう。

「世間」は、「社会」とおおよそ同じ意味で使われています。人間の生きる社会ですね。

実は「世間」は、そもそも仏教の言葉なのです。

仏教の「世間」は、第一に生きものすべてを意味します。

第二に、その生きものすべてを住まわせる、山や川、海や風などの自然環境も、「世間」に含まれます。

世間とは、とても広い意味だったのです。それがだんだん、人間の住む世界に限られて使われるようになりました。

仏教では、「世間」を迷いの世界ととらえます。私たち人間は、迷ったり、悩んだり、怒ったり、悲しんだりします。広いものだった「世間」が、人間の世界をさすようになったのは、このような仏教の考え方があったからでしょう。

仏教は、「世間」つまり迷いの世界をこえていくことを教えています。

そのためには、まず、自分が今いる場所を見つめることが大切なのです。

まず、自分の生きている「世間」をしっかりと見つめていきましょう。